

令和 8 年度刈谷市行政評価委員会 議事録

1 日時

令和 8 年 8 月 1 8 日（火）午後 3 時 3 0 分～午後 5 時

2 場所

刈谷市役所 4 0 2 会議室

3 出席者

（1）委員

野田敦敬、河北裕喜、田中丸庸、岡田行永、浅井優、中村祐子、倉地陽一、
神田志保子

（2）事務局

市長、伊藤企画財政部長、酒井企画政策課長、北洞課長補佐兼みらい共創係長、
波切政策推進係長、中村主査、田中主査

（以上、敬称略）

4 議 題

（1）委員長の選出について

野田敦敬氏を委員長に決定。

（2）委員長職務代理者について

河北裕喜氏を委員長職務代理者に決定。

（3）令和 7 年度「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世代交付金）」に係る効果 検証について

ア 新しい地方経済・生活環境創生交付金の概要及び行政評価委員会の進め方につ いて

事務局より資料「令和 7 年度「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世
代交付金）」に係る効果検証について」に沿って説明。

説明の後、質疑応答を実施。

イ 各事業の進捗状況について

事務局より資料「令和 7 年度「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世
代交付金）」に係る効果検証について」に沿って説明。

説明の後、質疑応答と意見交換を実施。

【以下、質疑応答・意見交換】

ア 新しい地方経済・生活環境創生交付金の概要及び行政評価委員会の進め方につ いて

委 員：各事業の KPI の設定について、総合計画の KPI と同一ではなく、事業独自
で設定した KPI と理解しているが、どのように決めたのか。

事務局：まず、交付金対象事業全体に対する地域再生計画を策定しており、第 8 次
刈谷市総合計画の重点戦略と同様の内容であるため、地域再生計画の KPI
については、重点戦略の KPI と同様である。

一方で、各事業における実施計画書には、各事業の趣旨や内容に応じて KPI を設定しなければならず、当該事業で目指すべき内容に応じ、適切な指標を事務局で検討し、国に認められたものである。

委員：KPI は、一旦国に提出して認められているものであり、今回の評価は KPI 自体の議論はしないという理解でよい。

事務局：基本的にはその考え方である。ただし、KPI の修正自体は可能であるため、本日の会議の中で、より適切な KPI についての意見が出た場合、その内容を踏まえ、事務局で検討する。

イ 各事業の進捗状況について

（事業概要 1 【歴史・文化・芸術資源と公共空間を活用したにぎわいづくり】）

委員：来訪者数については、説明にもあったとおり、測定方法のシステムが変わっているため、最終目標値を見直した上で評価しなければ、これを順調と言ってよい客観的な判断が難しい。最終的な目標値を精査した上で、順調かどうかを判定する方がよい。

このシートだけでは、測定システムが変わったことによってデータが従来と変わってしまったという事情が読み取りにくいので、表示方法を工夫した方がよい。

事務局：国に提出している KPI に合わせ、現時点では 15 万 9,370 人を基準としているが、目標値については、これまでの伸びの状況等を再度整理し、現在の 16 万 4,507 人という目標値から上方修正していく必要があると考えている。

この KPI について、現時点で「順調」と言ってよい客観的な判断が難しいとの意見を踏まえ評価を「－」とする。今後、国とも協議しながら KPI の目標値の見直しに向けて調整する。

委員：目的の 3 つ目に「まちへの誇りや愛着の低下」という課題が書かれている。誇りや愛着については、KPI にも設定がなく、実際に測ろうとすると非常に難しい。刈谷市民にとって、亀城公園や刈谷城は精神的なシンボル、思い入れのある場所という印象を持っているが、市民の機運醸成についてはどのように考えているか。

事務局：刈谷城の忠実な復元を目指す中で、市民の皆様に歴史文化に触れてもらうことで機運醸成を図るとともに、本市の歴史を次世代に継承していくことで、市民の愛着や誇りの醸成に繋がっていくと考えている。

委員：市民意識調査の中で、刈谷城に限らず、市全体に対する愛着を測る指標がなかったか。

事務局：市民意識調査の中で、「刈谷市に誇りや愛着を感じている」市民割合の設問がある。この指標は総合計画の重点戦略の KPI であり、この事業単独の KPI として評価するものではなく、様々な事業全体で評価されるものであるた

め、この事業単独の KPI には含めていない。

委員：課題に、亀城公園を含む周辺エリアへの回遊を促進するとあるが、今後の方向性での、回遊性への言及がやや弱い。

事務局：現時点でも、文化施設の相互割引制度など、回遊性の向上を図る取組を行っている。また、刈谷城完成後に向けても、周辺施設との連携やイベントの実施など、地域全体への誘導につながる取組を検討していく必要があると考えている。

指摘のとおり、課題に対する今後の方向性として、回遊性向上に関する記載内容を修正する。

委員長：内部評価の妥当性について確認する。来訪者数については測定方法が変わり、判断が難しい部分もあるが、全体としては減少しているわけではなく、事業も進んでいるため、原案の事業効果「B」については妥当ということではよろしいか。

委員：異議なし。

（事業概要 2 【公共空間を活用した交流を生むにぎわいづくり】）

委員：非常に良い施設で、政策効果も期待できると考える。施設整備に当たって中学生や高校生、地区の代表者と検討したとのことだが、これは実施設計に先立って行ったものなのか、実施設計の中で意見を取り入れる取組だったのか。もし、実施設計の前に実施した取組であれば、実績にそのことを記載してもよいのではないか。

事務局：施設については、まずどういう施設にしていくのかという観点から、中学生や高校生等が参加するワークショップを令和 6 年度に開催している。今回は、令和 7 年度の実績として整理しているため、令和 6 年度に実施したワークショップ自体は詳細には記載していないが、その成果を反映した実施設計であることが分かるよう、記載内容を修正する。

委員長：この事業については、施設もまだ完成前であるため、事務局案のとおり評価は「一」でよろしいか。

委員：異議なし。

（事業概要 3 【子どもを生み育てやすいまちづくり】）

委員：児童発達支援センターの件について、KPI はあるか。

事務局：児童発達支援センターについては、訪問支援件数を KPI としており、保育所等訪問支援と巡回訪問支援を合わせた件数である。

委員：講演会の参加割合は 90 パーセントとのことだが、対象は、全中学生か。

事務局：主な対象者は、中学 3 年生としており、夏休みの出校日に合わせて講演会を開催することで、高い参加割合に繋がっている。

委員：刈谷市は南北に長いので、北部の生徒などは参加するのが大変ではないか。

参加しやすいような支援はあるか。

事務局：生徒が参加しやすいように、各学校から会場までバスで送迎している。

委員：講師の選定は教育委員会の担当部署で行っているのか。

事務局：教育委員会の担当部署である生涯学習課で選定している。

委員：中学３年生の生徒が反応しやすい講師を選定しており、よい人選である。

スケジュールの確保や運営も大変だと思うが、刈谷市のような力のある自治体ならではの取組として、今後も継続されることを期待する。

事務局：引き続き、子どもたちにとって将来を考えるきっかけとなるよう取り組んでいく。

委員長：事業評価については、事務局案のとおり「Ｂ」で妥当としてよろしいか。

委員：異議なし。

事務局：本日の意見を踏まえ、目標値の見直しや記載内容を検討し、必要な修正を行っていく。